

日南市埋蔵文化財調査報告書 第3集

飫 肥 城 跡

—飫肥中学校体育館改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

1994. 3

宮崎県日南市教育委員会

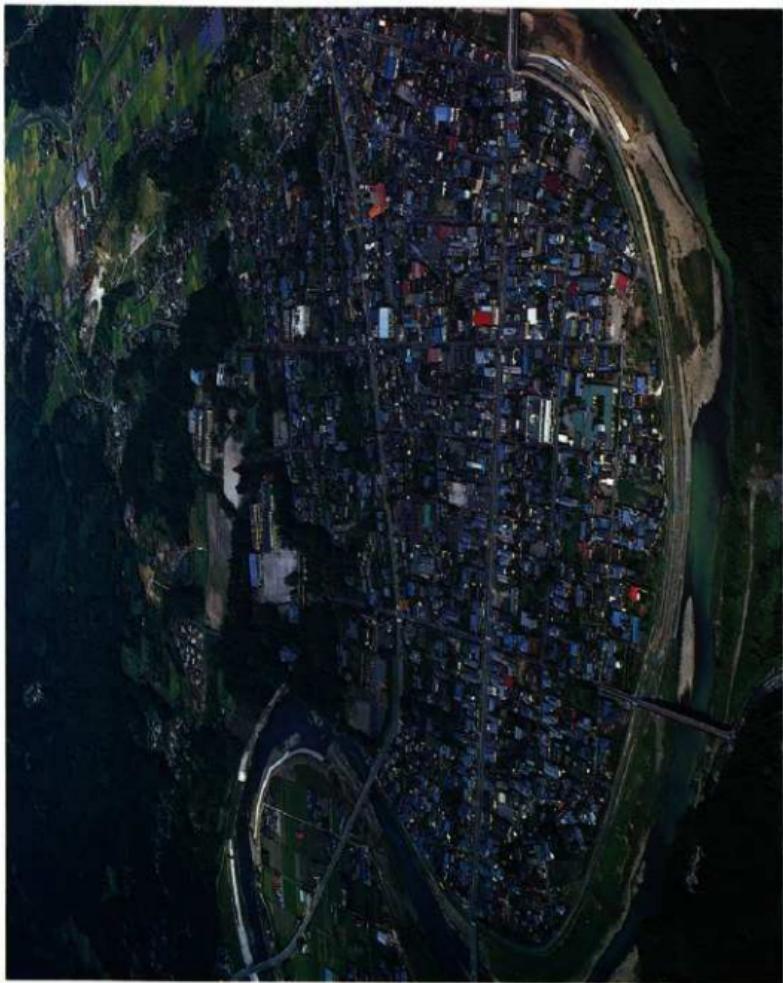
日南市埋蔵文化財調査報告書 第3集

飫 肥 城 跡

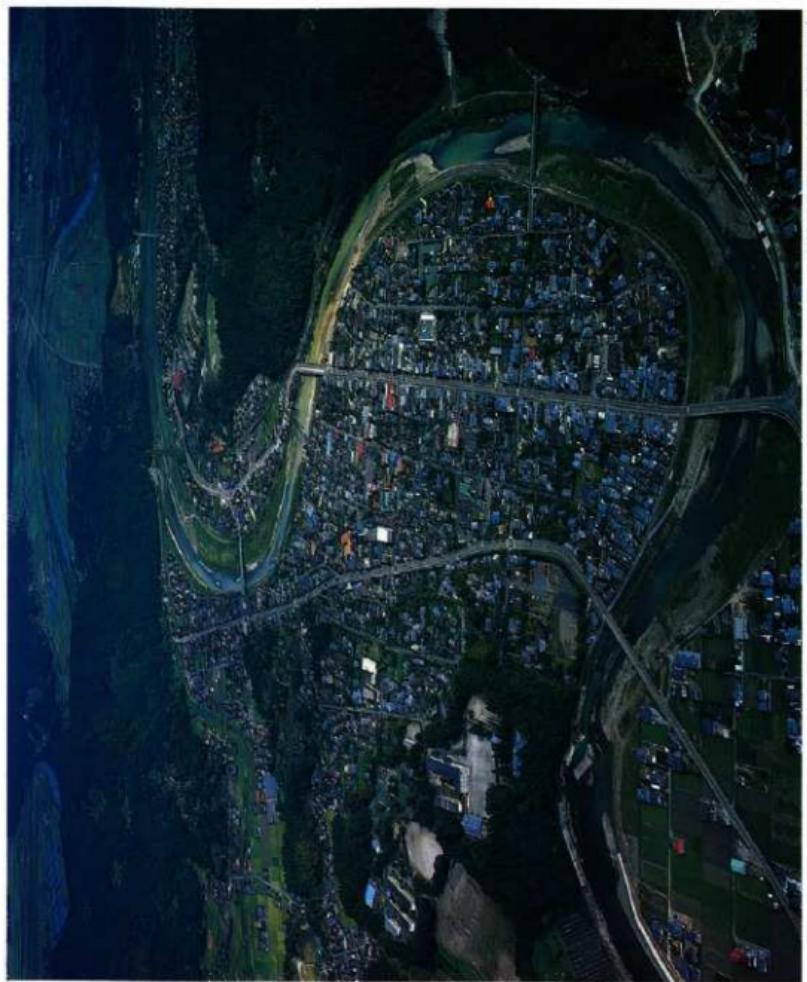
—飫肥中学校体育館改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

1994.3

宮崎県日南市教育委員会



筑肥城周辺夜景（南から）



岐阜城周辺遠景（西から）

序

飫肥の町並みは、飫肥藩伊東家5万1千石の城下町として栄えてきました。昭和52年には地方における小規模な城下町の典型として、九州地区で最初の重要伝統的建造物群保存地区に国から選定されています。一方、飫肥城も昭和49年から復元事業が開始され、振徳堂の修理、大手門・松尾ノ丸・資料館の建設がなされました。これらの事業により、飫肥城と城下町は市の歴史を物語る史跡として、また、本市を代表する観光地として蘇りました。

しかしながら、飫肥城についてはその一部が重要伝統的建造物群保存地区になっていたものの、城域の大半は未指定であったため、年々各種開発が進み、かなり旧状が損なわれております。本市教育委員会では、このような状況を踏まえて、飫肥城の繩張りを再検討するために、絵図や文献史料の検討、現地調査を重ねてきました。その結果、伊東・島津が争った飫肥城は近世の絵図に描かれた城域よりもかなり広くなる可能性があると考えられます。

したがって、飫肥の歴史にとって最も重要な史跡である飫肥城を保存・活用するためには、現在の飫肥城跡はもちろんのこと、周辺の環境をも保存する必要があります。このことは、ひいては重要伝統的建造物保存地区である飫肥城下町の歴史的環境を維持していくうえで必要不可欠なことがあります。

このような状況のなかで、飫肥城内にある市立飫肥中学校の体育館が、かねてより老朽化が著しいため、改築を実施することとなりました。本市教育委員会では遺跡の重要性を鑑み、宮崎県文化課と協議の結果、埋蔵文化財の発掘調査を行ないました。限られた時間と体制のなかでの調査であったために、十分な成果を得られたかどうかは市民の皆様の御批判を仰ぐとして、本書が、地域の歴史を考える上で少しでも役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査の指導、協力いただいた宮崎県教育委員会、飫肥中学校、調査作業員、地元関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成6年3月

日南市教育長 野邊行俊

例　　言

1. 本書は、平成5年度に実施した市立鰐肥中学校体育館改築に伴う発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、日南市教育委員会が主体となり実施した。
3. 調査組織は次の通りである。

調査主体　日南市教育委員会

教育長　野邊行俊

社会教育課長　高崎裕文

文化係長　岡本武憲（調査担当）

文化係主事　田中さゆり（庶務担当）

4. 本書で使用した方位は磁北である。また、土層の色調は農林省農林水産技術会事務局監修の標準土色帖による。
5. 本書の執筆・編集は岡本が担当した。
6. 出土遺物及び発掘の記録は日南市教育委員会で保管している。

目 次

第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 飫肥城の地理的環境	1
第Ⅱ章 調査の成果	7
第1節 調査区の概要	7
第2節 調査区の地形と基本層序	7
第3節 遺構の調査	7
第4節 遺物の調査	8
第Ⅲ章 まとめ	8

図面目次

第1図 飫肥城周辺城館分布図	12
第2図 飫肥城縄張り図（江戸時代前期）	13
第3図 調査区位置図（1/2500）	14
第4図 調査区位置図	15
第5図 遺構平面図	16
第6図 土層断面図	17
第7図 掘立柱建物群平面図	18
第8図 飫肥城下古図（寛永・正保年間）	19
第9図 飫肥城下古図（慶応年間）	20

写 真 図 版 目 次

卷頭図版 1	鰐肥城周辺遠景（南から）	
卷頭図版 2	鰐肥城周辺遠景（西から）	
図版 1 上	調査前（西から）	21
図版 1 下	試掘状況（西から）	21
図版 2 上	試掘トレンチ 1	22
図版 2 下	試掘トレンチ 2	22
図版 3 上	調査状況	23
図版 3 下	調査状況	23
図版 4 上	掘立柱建物群検出状況	24
図版 4 下	堀検出状況	24
図版 5 上	堀掘削状況	25
図版 5 下	掘立柱建物群掘込状況	25
図版 6 上	掘立柱建物群完掘状況	26
図版 6 下	堀完掘状況	26
図版 7 上	堀埋土堆状況（南壁）	27
図版 7 下	調査区南壁土層	27
図版 8 上	堀埋土堆状況（北壁）	28
図版 8 下	土壤完掘状況	28
図版 9	調査区完掘状況	29
図版 10	鰐肥城下古図（寛永・正保年間）	30
図版 11	日向国鰐肥城破損之覚図（寛文 2 年）	31
図版 12	鰐肥城再度地震割古図（延宝 8 年）	32
図版 13	鰐肥城改築願古図（貞享 2 年）	33
図版 14	鰐肥城図（明治 5 年）	34
図版 15	出土遺物	35

第1章 はじめに

第1節 発掘調査に至る経緯

今回、発掘調査の対象となったのは、日南市大字板敷8181番地所在の市立飼肥中学校内の体育館改築用地903m²である。飼肥中学校は、周知の遺跡である近世飼肥城の東北部を占める「八幡城」と「宮城」跡に位置するため、体育館改築に際しては、遺構保存のための協議を行なう必要があった。そこで、遺構の有無を確認するために平成4年10月、試掘調査を実施したところ、旧校舎の基礎工事で擾乱を受けているものの、調査区内に巨大な堀跡があることが判明した。しかし、協議の結果、体育館改築場所の変更は困難であったので、発掘調査による記録保存を行なうことになった。本調査は、その後の建築工事期間の関係もあって、平成5年4月12日より5月31日までの予定で実施した。

発掘調査は、比較的好天に恵まれたこともあって順調に進み、予定通り終了した。その後、年度末までの期間に整理作業を実施した。

第2節 飼肥城周辺の歴史的環境

飼肥の地形はシラス台地が卓越している。飼肥城は、そのうちの一つである酒谷川に囲まれたシラス台地の先端部に占地して造られた。周辺の丘陵や山々には、島津と伊東の抗争舞台となった新山城・上城・中ノ尾砦・篠ヶ城を始め、多くの城・砦・陣跡が残されている。

飼肥城の築城時期は不明であるが、平安時代にはこの地が飼肥地区の政治・経済の中心的な集落となっていた可能性が高い。平成3年度に行なった飼肥城大手門前の国際交流センター小村記念館建設に先立つ発掘調査によると、10世紀代の遺構面から掘立柱建物群が検出されている。このことが平安時代の『和名抄』に記された「宮崎郡飼肥郷」と直接結びつくわけではないが、後の飼肥城の占地からみても、「飼肥郷」の有力な集落であったことは間違いないであろう。

鎌倉時代の飼肥については『日向国図田帳』(1197)に「飼肥北郷四百丁、飼肥南郷百十丁」とあるだけで、具体的な様相はほとんど不明である。しかしながら、鎌倉時代末の永仁3年(1295)には飼肥城の西にある大迫寺跡石塔群に板碑が建立され、以後、五輪塔や多宝塔が多数建立される。この他、隈谷歓楽寺跡石塔群や伊比井天神ノ尾遺跡など飼肥地区各所に板碑や五輪塔が造立される。このことは、飼肥に有力な在地領主がいたことを示している。

事実、つづく南北朝期の『長谷場文書』の中には飼肥を彌る社会状況がかなり具体的に記されている。それによると、以下のことが記されている。

飼肥は島津荘の一部で、興福寺一乗院が領家である。

飼肥は北郷(現在の北郷町と日南市)と南郷に分けられていた。

飼肥北郷の収納使・弁済使は水間栄証・忠政であったが改易された。

新しい収納使・弁済使には長谷場鶴一丸が任命された。

しかし、水間栄証・忠政はそれに抵抗して、長谷場鶴一丸の妨害を行なった。

このうち、とりわけ注目されるのは、貞和2年（1346）の文書に、「水間栄証・忠政等が城郭を構える」と記されていることである。この記事が、筑肥に城郭が築かれるることを示す最も古い記述である。この他、「長谷場文書」には、水間栄証・忠政親子に加担する悪党として、榎井四郎頼理・吉田彦三郎・筑肥北郷地頭代・加宇原平四郎入道の名前が挙げられている。また、筑肥に関係した在地領主として、沙弥純阿・沙弥了心・小野（野辺）盛政・小野（野辺）政範・小野（野辺）盛貞・沙弥道慶・源正信・藤原（長谷場）実純・藤原（長谷場）久純の名前があり、筑肥の支配権を巡る複雑な様相が浮かび上がってくる。これら複雑に絡みあつた在地領主層の利害関係が、「城郭」を築く契機となるのであろう。

さらに、「土持文書」によると、康安2年（1362）には、一色範親が土持時栄に対して筑肥北郷石崎城での戦功を賞している。また、「延陵世鑑」には応安2年（1369）に土持頼宣が筑肥の城を攻め落とすとある。

以上の史料に見られるように、在地の有力領主の台頭によって、島津荘の領家による支配が緩み、南北朝の争乱と相まって筑肥の地に政治的な緊張関係が生まれ、結果として城郭が築かれたと考えられる。

明徳2年（1391）、島津元久が日向守護になっている。

『山田聖栄自記』によると、応永30年（1423）には島津久豊が日向伊東氏攻略のため、筑肥・油津に軍を進めている。この時期には、島津氏が筑肥の直接支配に乗り出したのであろう。つづく長禄2年（1458）、島津忠国が、新納忠統を筑肥城主に封じている。この時点ではすでに筑肥の支配権が島津氏の手中にあったと考えられる。以後、文明16年（1484）伊東氏が筑肥を攻撃し始めるのを機に、筑肥城主には島津一族が宛がわれることになる。

伊東氏の筑肥城攻は、文明16年（1484）から永禄11年（1568）までの間に、大きく分けて9回行なわれた。伊東氏が筑肥の地に執着したのは様々な理由が考えられるが、その最も大きな理由は、筑肥が外ノ浦や油津などの天然の良港を持ち、日明貿易や琉球貿易の寄港地として経済・文化が栄えていたことによると考えられる。

この時期以降の筑肥城を中心とした歴史を年表にしてみる。

- | | |
|---------------|--|
| 1423(応永30) | 島津久豊、日向伊東氏攻略のため、筑肥・油津に軍を進める。『山田聖栄自記』 |
| 1424(応永31) | 島津方の奈良氏は、加江田城攻めに際し「筑肥つづき川地」に陣をおく。 |
| 1441(嘉吉元)3.13 | 島津忠国が新納忠統（筑肥領主）、北郷持久（都城領主）、肝付兼忠、本田重恒、柳山孝久と謀り、柳間の永徳寺を囲み、足利義昭を自刃させた。 |
| 1452(享徳元) | 島津忠国、島津季久に筑肥と福島を宛てがう。『忠国公御譜中』 |
| 1458(長禄2) | 島津忠国が新納忠統（志布志城主）を筑肥城主に封じた。 |
| 1464(寛正5) | 島津立久が伊東祐堯・祐国と鶴戸山坊で会合し、境界を定め、祐堯の娘を娶る |

- ことを約した。
- 1466(寛正7) 島津立久は伊東氏と飫肥で犬追物を行なう。『新納近江守忠統譜中』
- 1468ごろ 飫肥領主は新納忠統『行脚僧雜録』
- 1473(文明5) 新納忠統が東弁分大宮大明神に梵鐘を寄進した。
- 1484(文明16) 7 伊東軍が中ノ尾(鳩ヶ嶺)に陣した。
- 10 伊作久逸(柳間城主)が飫肥城(城主新納忠統)を攻める。
 - 11 伊東祐国・祐邑が北郷安国寺に陣した。
 - 12 伊作久逸が南郷城を攻略した。
伊東軍が隈谷城を攻略し、飫肥城・酒谷城を攻めた。『文明記』
- 1485(文明17) 6 島津軍と伊東軍が飫肥楠原で戦い、伊東軍が敗走した。
- 1486(文明18) 島津忠昌が島津忠廉を飫肥城主とし、新納忠統を旧領の志布志城主とした。
『黒岡帶刀所藏文書』
- 1487(長享元) 柱庵和尚が飫肥に安国寺再建。
- 1490(延徳2) 島津忠昌、飫肥で犬追物を行なう。『上原氏文書』
- 1519(永正16) 島津忠朝、透明船の保護を大内氏から求められる。
- 1520(永正17) 瑞佐の『日下一木集』に臨江寺(油浦)、慶運寺(油浦の梅浜)
- 1540(天文9) 島津忠朝、飫肥で没する。『豊州家忠朝譜中』
- 1541(天文10) 島津忠広、飫肥の支配権を継承した。支配領域は南郷・福島院・志布志・中郷
梅北・末吉に広がった。『瀬戸口伊豆入道覚書』
- 10 伊東軍が瀬平に陣を布く。島津軍も鶴戸鳥帽子砦を築く。
- 1545(天文14) 1 伊東軍、烏帽子砦を攻略する。
- 2 島津忠隅、鬼ヶ鬼城に陣した。
 - 2 伊東軍、水ノ尾(貝殻城)より中ノ尾(鳩ヶ嶺)を攻略、飫肥城の二重城戸まで迫ったが落ちず、高佐に陣した。
 - 2 伊東軍が鬼ヶ城を攻める。
 - 6 島津軍が烏帽子砦を焼く。
 - 12 伊東軍が北郷郷之原を攻める。
- 1546(天文15) 8 伊東軍が北郷郷之原の水ヶ城に陣を布く。
- 1547(天文16) 7 伊東軍が中ノ尾(鳩ヶ嶺)に砦を築き、隈谷新城を攻めた。
- 12 伊東軍が隈谷新城を攻略した。また、堰ノ尾砦を築いた。
- 1548(天文17) 7 伊東軍が飫肥城を攻める。
- 11 伊東軍が新山城を攻めて焼く。
- 1549(天文18) 3 島津忠広(飫肥城主)が忠親に家督を譲った。
- 11 島津軍、中ノ尾(鳩ヶ嶺)で伊東軍を破った。
- 1551(天文20) 7 伊東軍が鬼ヶ城を攻略した。

- 1553(天文22) 1 伊東軍が鈴鹿城を攻め、水ノ尾(貝殻城)に陣を布した。
8 島津忠親(鈴鹿城主)が、伊東氏に東郷三百町を与えて和睦した。
- 1554(天文23) 12 鬼ヶ城が焼失した。
- 1555(弘治元) 3 伊東軍が中ノ尾(鷺ヶ嶺)砦を攻めた。
7 鬼ヶ城の伊東軍が鈴鹿城を攻めた。
- 1557(弘治3) 3 東光寺砦・鬼ヶ城の伊東軍が鈴鹿城を攻めた。
6 伊東軍が新山城を攻める。
- 1558(永禄元) 6 伊東義祐が鈴鹿長慶寺に攻め込む。
11 東光寺砦の伊東軍が新山城を攻略した。
12 伊東・島津の両軍が板敷田間で合戦した。
- 1559(永禄2) 6 伊東義祐が再び鈴鹿長慶寺に攻め込む。
島津義弘、鈴鹿城の在番となる。
- 1560(永禄3) 8 伊東義祐、風田長閏寺を建立する。
伊東義祐、宮ノ浦玉依姫大明神(現宮浦神社)を再興した。
- 1561(永禄4) 4 島津忠親(鈴鹿城主)、宮蔵城を割譲して伊東義祐と和睦した。
- 1562(永禄5) 5 島津忠親(鈴鹿城主)、伊東義祐に鈴鹿城を明け渡した。
9 島津忠親、鈴鹿城と酒谷城を攻め落とす。
伊東義益、大宮神社を再興する。
- 1563(永禄6) 8 伊東軍、東光寺砦・鬼ヶ城を本拠にして鈴鹿城を攻める。
8.19伊東義益、瀬平を経て東光寺砦より外ノ浦に兵を進める。
12.13伊東義益、鶴戸伊比井一宮大明神を再興した。
12.29島津忠親、酒谷村源助大明神を再興した。
- 1564(永禄7) 1.20伊東軍が鬼ヶ城に陣を布いた。
3.14伊東軍が酒谷城を攻める。
3.16新山坊の迫で伊東、島津が戦う。
- 1565(永禄8) 2.7 鈴鹿板敷田間で伊東、島津が戦う。
2.19伊東軍が新山の外屋ノ尾に陣を布いた。
3.24伊東軍が楠原に陣を布いた。
5.1 伊東軍が新山城を攻め取る。
- 1566(永禄9) 3.22伊東軍が目井に陣を布いた。
4.20伊東、島津が宮ノ浦で海戦をした。
- 1567(永禄10) 1 伊東軍が新山城を攻め取る。
5.1 伊東、島津の両軍が耳田城附近で戦う。
- 1568(永禄11) 1.9 伊東義祐、2万1千人の兵で佐土原をたち、鈴鹿に向かう。
1.11伊東軍が鬼ヶ城に着き、鷺ヶ嶺、新山、辻の堂、乱杭ヶ尾などに陣を進めて鈴

肥城を包囲した。

- 1.21 伊東軍が篠ヶ嶺より永吉口に押し寄せ、島津軍と戦う。
- 2.21 北郷時久、軍兵1万3千人で酒谷より小城、竹野に来たる。伊東軍、これを迎へ討ち、大勝する。
- 5 伊東軍、酒谷城を囲む。
- 6.6 米良筑後守(須木)の仲介で伊東、島津が和睦となり、飫肥南郷を伊東に、橋間を肝付に与えることとなった。
- 6.8 島津忠親が飫肥城を明け渡し、酒谷城に引き退き、後に都城へ退去した。
飫肥城主は伊東祐兵(飫肥千町)、介副は伊東祐梁(今城・三十町)、執事は木脇祐守(松尾・二十町)

1572(元亀3)5.3 木崎原合戦にて伊東軍大敗。

1577(天正5)12.9 伊東義祐、佐土原より穗北城に至る。

12.9 上原長門守尚近が飫肥城主になる。

1578(天正6)1 伊東義祐等、大友宗麟を頼りに豊後に落ちのびる。

1582(天正10)1 伊東祐兵、秀吉に仕える。

1585(天正13)8.5 伊東義祐、堺浦で病死。

1587(天正15)4.17 耳川の合戦で羽柴秀長軍が島津軍を破る。

8.5 伊東祐兵、豊臣秀吉より飫肥などの千七百三十六町を宛がわれる。

1588(天正16)5 伊東祐兵、飫肥城に入る。

1592(文禄元)2 伊東祐兵が文禄の役に従軍した。

1593(文禄2)10 伊東祐兵が領内の検地を行ない、三万六千石を計った。

1597(慶長2)2 伊東祐兵が慶長の役に従軍した。

1600(慶長5)9 関ヶ原合戦

1604(慶長9) 伊東祐兵が領内の検地を行ない、五万七千八十石を計った。

徳川幕府開設

1615(元和元)5 一国一城令

1662(寛文2)9.19 大地震と大津波があり、飫肥城も大きな被害を受ける。

1680(延宝8) 再び大地震があり、飫肥城が被害を受ける。

1684(貞享元) 三度大地震があり、飫肥城が被害を受ける。

1686(貞享元)3.23 飫肥城改築開始。

1693(元禄6)5.28 飫肥城改築落成。

1870(明治4) 飫肥城樓館取り壊し。

飫肥北郷・南郷城郭関係記事一覧

	新	山城	新	山城	新	山城	新	山城	高	田	新	城	高	松水	高	平島	子	南	日	井	城	都	原	沢	高	寺	
1458	○																										
1484	○	○	○	●	○	●								●					○	●	○	●	●				
1485	○				●	●																				●?	
1486	○																										
1540	○																										
1541	○																	●	○								
1542	○																	●	○								
1543	○																	●	○	●							
1545	○				○	●									○	●	●	●	●	●	○	●	○	●	○		
1546	○	○																									●
1547	○			●										○	●											●	
1548	○		○	●																							
1549	○		○	●	○	●									●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	
1551	○														○	●											
1552	○																	●									
1553	○																●										
1555	○	○															●					○					
1556	○																		○	●							
1557	○								●								●										
1558	○		○	●					●								●										
1561	○	●	○	●																							
1562	●	●	○	●	○																						●
1563	○								●								●		●			○	●				
1564	○	○	○														●							●			
1565	○																●										
1567	○		○	●					●								●		●								
1568	○	●	○	●	●				●								●		●								
1576	●																										
1577	●	○																									
1588	○	●																									

○ 猪津

● 伊東

第Ⅱ章 調査の成果

第1節 調査区の概要

今回の調査対象区は、鉢肥中学校体育館新築予定地である。新しい体育館は、旧体育館の一部と校舎の中庭にかけて建設される計画であった。そこで、当初はそのすべてを調査する予定であったが、旧体育館部分については、遺構面が削平を受けていると予想される上に、取り壊しまでに時間がかかることから、中庭部分の調査状況から判断して調査の可否を判断することにした。結果的には、中庭部分の遺構面に比して旧体育館部分の基礎が一段低いこともあって、遺構の残存状況が極めて悪いと予想されるため調査しなかった。また、中庭トイレについても同様に遺構の残存状況が極めて悪いと予想されるため調査しなかった。したがって、調査面積は約400m²であった。

調査の結果は、事前の試掘調査と絵図による予想通り、調査区のはば中央に南北に延びる堀跡の東肩が確認できた。調査区の東半分は掘立柱建物群が認められたが、校舎の基礎などによる削平が著しく、調査区南東のシラス上面で柱跡を確認するに留まった。

第2節 調査区の地形と基本層序

調査区は、鉢肥城の占地するシラス台地の北東端近くに位置する。北側には幅約100m、長さ約400mの谷が東西に延びている。谷底と調査区の比高差は約25mである。調査区の位置する丘陵は、西側の $\frac{1}{4}$ が鉢肥中学校敷地、東側 $\frac{1}{4}$ が田ノ上八幡神社の境内となっている。

調査区の現況は、旧体育館と校舎の中庭であるため、水平な地表面であった。しかし、東側断面をみると、旧地形がなだらかに傾斜して北側の谷方向へ行くほど低くなっていることがわかる。調査区の南東角から5mの間はアカホヤ以下の4層が削平を受けており、シラスが戦国期の遺構面となっている。削平深度は最大1.5mを測る。

遺構面より上の埋土は、数回にわたる鉢肥中学校の校舎建設によって大きく擾乱されており、表土以下遺構面までが、すべて搬入土である。擾乱は調査区の北半において著しく、一部にはコンクリートの基礎がシラスまで食い込んでいた。

堀跡の埋土は西から東へ、南から北へ一度に埋め戻されたようで、褐色土とシラスとアカホヤが混じり合った土が互層となって堆積している。堀については安全対策上、底まで完掘していないので、深さは確認できなかった。ボーリング調査のデータによると、No.2の試掘で9.1mまでは埋土と考えられる。したがって、堀の中央部では15m前後の深さになると予想される。

第3節 遺構の調査

今回の調査で検出したのは、堀跡と柱穴群及び土壙である。このうち、堀跡は調査区の西半部においてほぼ南北方向に延びている。堀の西肩部は調査区外であり、堀の幅は不明である。また、堀の深さについても調査区が狭く、シラス土壙であることと、中学校の校舎横で極めて人の往来が激しいことから完掘しなかった。

調査区の東半部のうち南側において柱穴群(27ヶ所)を検出した。柱穴群の検出状況に規則性は認められず、掘立柱建物としてのまとまりは確認できなかった。柱穴の大きさは直径約20cm~40cm、深さ約40cm~60cmをはかる。調査区の東半部のうち北側は校舎の基礎による擾乱が著しく、柱穴等の遺構は確認できなかった。

土壌は調査区のほぼ中央の堀跡肩部に位置する。形状は楕円形で、長径140cm、短径115cm、深さ101cmを計る。土壌の底部は径50cmの凹みがある。

第4節 遺物の調査

今回の調査で出土した遺物はすべて近世の陶磁器類である。内訳は磁器片22点、陶器片11点である。出土状況は、遺構面直上が大半で、一部堀跡埋土からも出土した。また、土壌からも18世紀後半と考えられる陶磁器類の小片が出土している。なお、柱穴からの出土はなかった。

第Ⅲ章 まとめ

今回の調査区は、飫肥城内の北東端にあたる田ノ上八幡神社が祀られた曲輪とその西の堀にかけて位置する。「寛永・正保年間飫肥城下古図」によると、「金剛院」と呼ばれる寺院となっていた。堀跡は「明治5年飫肥城図」においても描かれていることから、明治以降一度に埋められたと考えられる。現在は飫肥中学校の校内となっており、地表面からは堀の存在を確認することが困難である。したがって、今回の調査で堀の位置が確認できたことは、飫肥城の縄張りを考えるうえで大きな成果といえよう。

飫肥城は、南日向の代表的な中世城郭として、島津氏と伊東氏の激しい攻防戦の場となってきた。当然のことながら、城としての機能は幾多の戦いの度に整備され、難攻不落とも評価される程の縄張りを形成するに至った。江戸時代以降は伊東氏の居城として明治時代まで機能している。その間、寛文、延宝、貞享年間に3度の大地震により、近世的な城郭に大改築され、現在に至っている。昭和51年から昭和54年にかけては、飫肥城復元事業によって、大手門の復元、歴史資料館の建設、松尾の丸の建設が行なわれた。また、昭和52年5月18日には飫肥城及び城下の一部が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。このように、飫肥城及び城下町を保存、活用しようと様々な試みがなされてきた。しかし、飫肥城や城下町の正確な復元推定図が作成されずに行なわれたこれらの事業は、現在、様々な問題を生じている。今回の調査を契機に、今後は飫肥城及び城下町の形成について詳細な検討を加える必要があることを指摘しておきたい。

宮崎県城郭関係調査報告書一覧

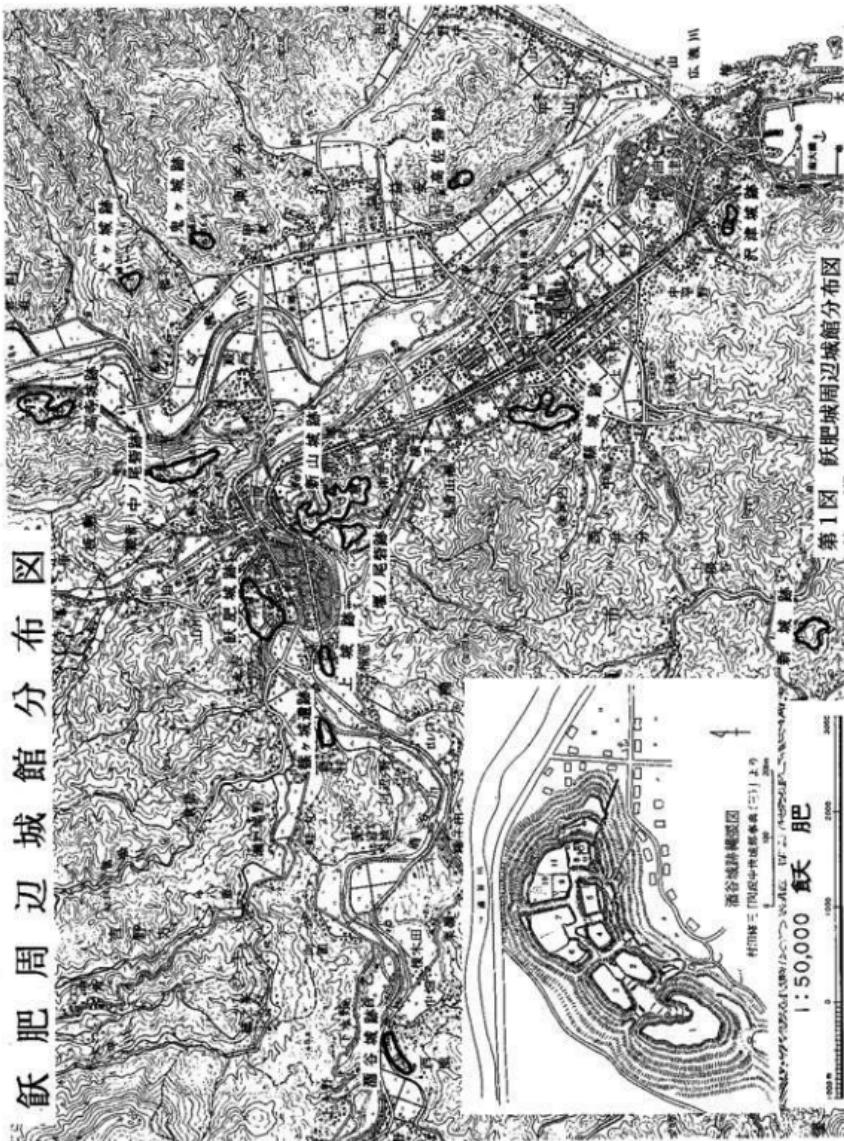
(調査報告書)

1. 石川恒太郎「都於郡城について」『宮崎県文化財調査報告書』第六輯 宮崎県教育委員会1961
2. 杉田富夫「車坂城址」「郷土研究」第二号 宮崎高校郷土研究部1964
3. 石川恒太郎「清武城の発掘」「歴史手帖」第五卷第四号 名著出版1975
4. 面高哲郎「清武城跡の調査報告」「宮崎考古学会第六回研究発表会発表要旨」宮崎考古学会1977
5. 石川恒太郎「清武城址」「日本考古学会年報」29 日本考古学協会1978
6. 石川恒太郎・面高哲郎「城内遺跡」「九州縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書」(三)宮崎県教育委員会1980
7. 谷口武範・岩永哲夫「都城・中之城跡発掘調査」「都城市文化財調査報告書」第三集 都城市教育委員会1983
8. 谷口武範「今江城跡」「宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報」V 宮崎県教育委員会1986
9. 菅付和樹「車城城跡」「宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報」VI 宮崎県教育委員会1987
10. 永友良典・菅付和樹「車坂城西ノ城跡の調査」「宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書」第四集 宮崎県教育委員会1988
11. 谷口武範「今江城(仮称)跡の調査」「宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書」第四集 宮崎県教育委員会1988
12. 日高正晴・諸方吉信「都於郡城址本丸跡」「西都市埋蔵文化財発掘調査報告書」第五集 西都市教育委員会1988
13. 菅付和樹「昭和61年度発掘調査概要 一車坂城跡の発掘調査一」「宮崎考古」第10号 宮崎考古学会1988
14. 近藤 協「野尻町文化財調査報告書第3集 紙屋城跡 鎌野原県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」野尻町教育委員会1988
15. 桑畠光博「都之城本丸跡」「都城市文化財調査報告書第10集 昭和63年度遺跡発掘調査概報」都城市教育委員会1989
16. 古本正典「簗ヶ城遺跡」「宮崎県文化財調査報告書」第32集 県教委1989
17. 諸方政幾「西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 中原遺跡(中原城跡)県営農地保全整備事業(岩原地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」宮崎県・西都市教育委員会1990
18. 桑畠光博「IV野々美谷城跡発掘調査概報 一曲輪3の調査一」「都城市文化財調査報告書第11集 平成元年度遺跡発掘調査報告書」都城市教育委員会1990
19. 北郷泰道「付章 木場城跡竪堀の調査」「高崎町文化財調査報告書第2集 様屋敷第1・2遺跡 木場城跡」高崎町教育委員会1990
20. 近藤 協「紙屋城跡」「野尻町文化財調査報告書第4集 東城原第1・2・3遺跡 紙屋城跡 遺跡 鎌野原県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」野尻町教育委員会1990

21. 桑畠光博「Ⅱ. 都之城跡（主郭部）一第1～4次調査概報」『都城市文化財調査報告書第13平成2年度遺跡発掘調査概報』都城市教育委員会1991
22. 山本 格『高鍋町文化財調査報告書第6集 町内遺跡発掘調査報告書 老瀬坂上第2遺跡 高鍋城跡』高鍋町教育委員会1991
23. 緒方博文『日知屋城跡～範囲等確認調査報告書～』日向市教育委員会1991
24. 重永卓爾『都城市文化財調査報告書第15集 都之城取添遺跡発掘調査概報』都城市教育委員会1991
25. 北郷泰道他『県道杉安・高鍋線道路改良工事関係発掘調査報告書 穂北城跡』宮崎県教育委員会1992
26. 横山哲英・八巻孝夫『都城市文化財調査報告書第15集 金石城跡』都城市教育委員会1992
27. 島田正浩『高岡町埋蔵文化財調査報告書第3集 高岡町内遺跡発掘調査報告書』高岡町教育委員会1993
28. 富田麗子『江田城跡』門川町教育委員会1993
29. 『都市の文化財』都城市教育委員会1993
(関係論文・資料紹介等)
1. 平部嶽南『日向纂記』1885 (歴史図書社1976)
 2. 平部嶽南『日向地誌』日向地誌刊行会1929 (青潮社1976)
 3. 石川恒太郎「宮崎県」「日本城郭大系 第16巻 大分・宮崎・愛媛」新人物往来社1980
 4. 石川恒太郎「飫肥(日南)城下町絵図」「日本城下町繪圖集・九州篇」新人物往来社1980
 5. 澤武人「飫肥と飫肥城」「宮崎県地方史研究紀要」第六輯 宮崎県立図書館1980
 6. 飯田達夫「飫肥城と伊東家」(I～V)
 7. 村田修三「図説中世城郭辞典」第三巻 新人物往来社1987
 8. 八巻孝夫「南九州の歓状空堀群の城」「中世城郭研究」第3巻 中世城郭研究会1989
 9. 宮崎考古学会『平成2年度宮崎考古学会秋季研究会 日向の中世山城の現状と課題』1990
 10. 千田嘉博「戦国期城郭・城下町の構造と地域性」「ヒストリア」第129号 大阪歴史学会1990
 11. 桑畠光博「中世城郭研究メモ」「A MAME」第6号 1990
 12. 八巻孝夫「都之城について 繩張検討による現状把握」『都城市文化財調査報告書第13集 平成2年度遺跡発掘調査概報』都城市教育委員会1991
 13. 千田嘉博「城郭史からみた城山」「城山講演会 まちづくりと城」(延岡市) 1991
 14. 土田充義「薩摩藩領内の「麓」計画に関する研究」(平成3年度科学研究費補助金(一般C)研究成果報告書) 1992
 15. 千田嘉博「6. 特稿 穂佐城址について」『高岡町埋蔵文化財調査報告書第2集 高岡町遺跡詳細分布調査報告書』高岡町教育委員会1992
 16. 八巻孝夫「安永城の繩張調査」「都城市文化財調査報告書第15集 金石城跡」都城市教育委員会1992
 17. 宮田浩二「櫛間城跡について」「南日向の中世」宮崎考古学会県南地区例会資料1992.7.5

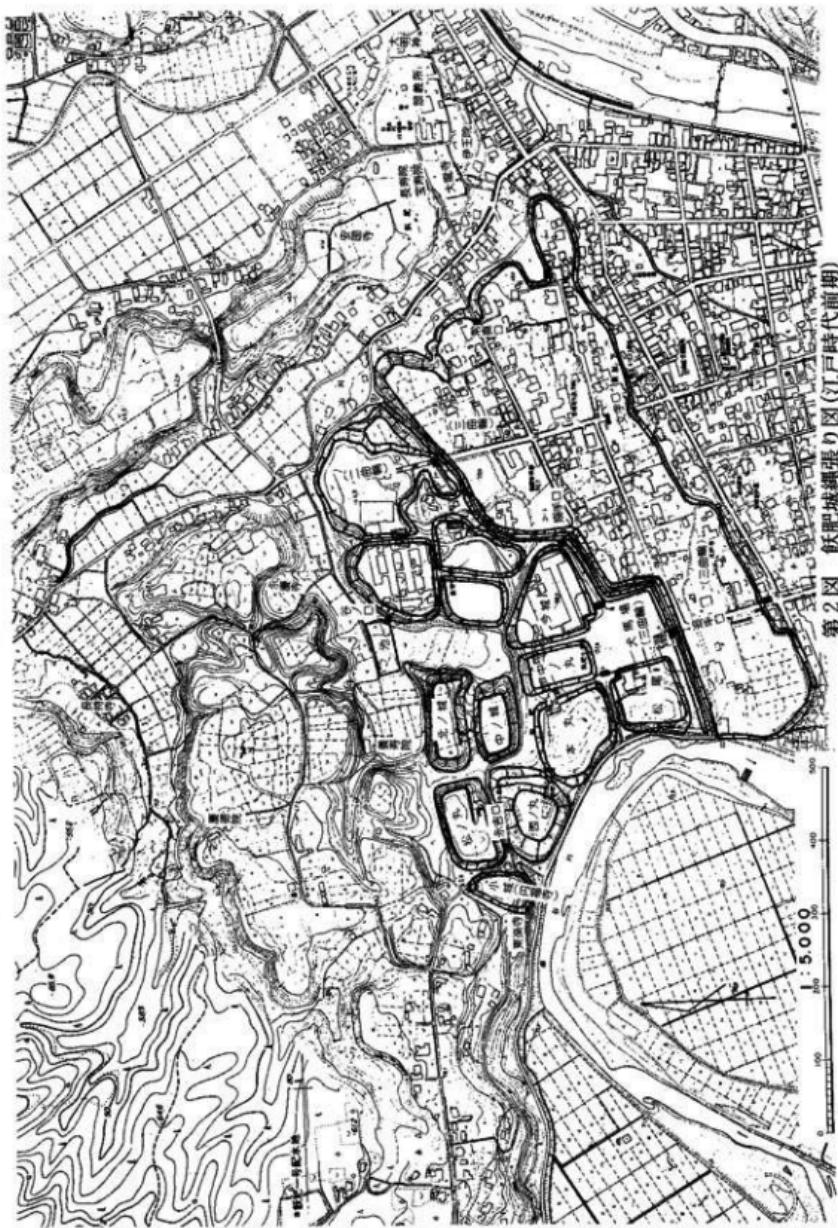
18. 岡本武憲「南日向の中世城郭」『南日向の中世』宮崎考古学会県南地区例会資料1992.7.5
19. 北郷泰道「北郷氏における中世城郭とその社会(その者)ー山田城跡と自分史ー」『宮崎考古石川恒太郎先生追悼論文集』宮崎考古学会1993

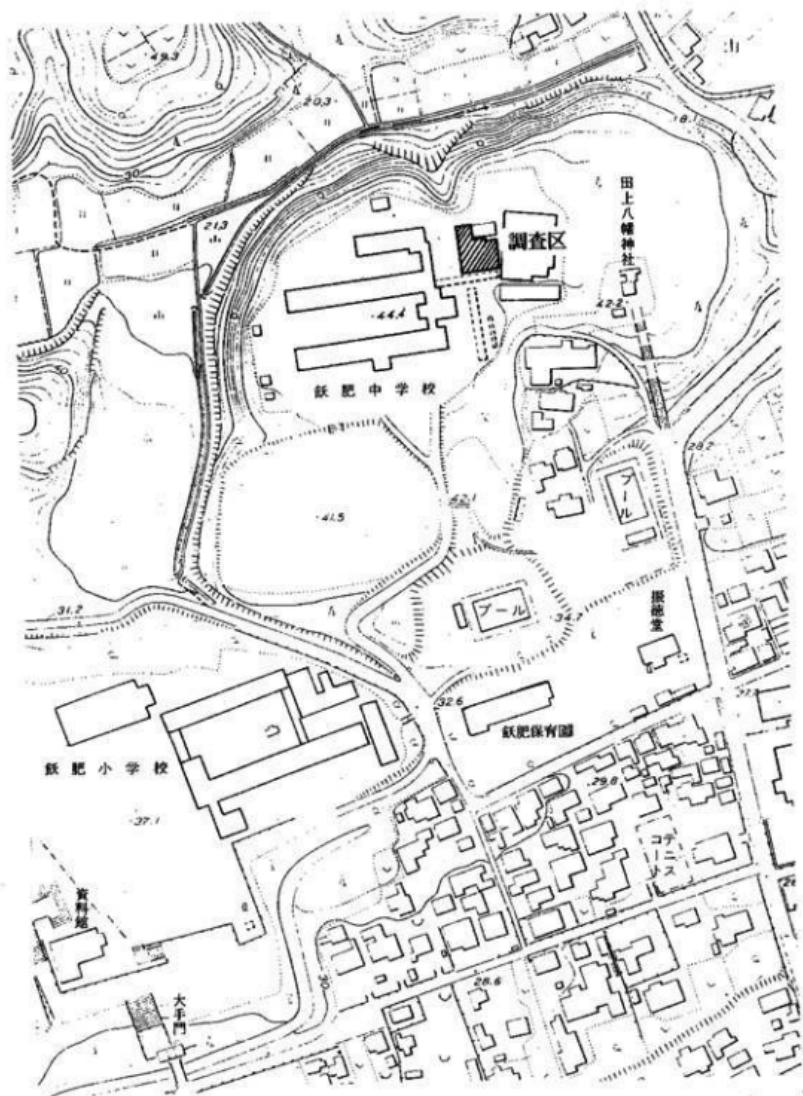
肥城周辺城館分布図



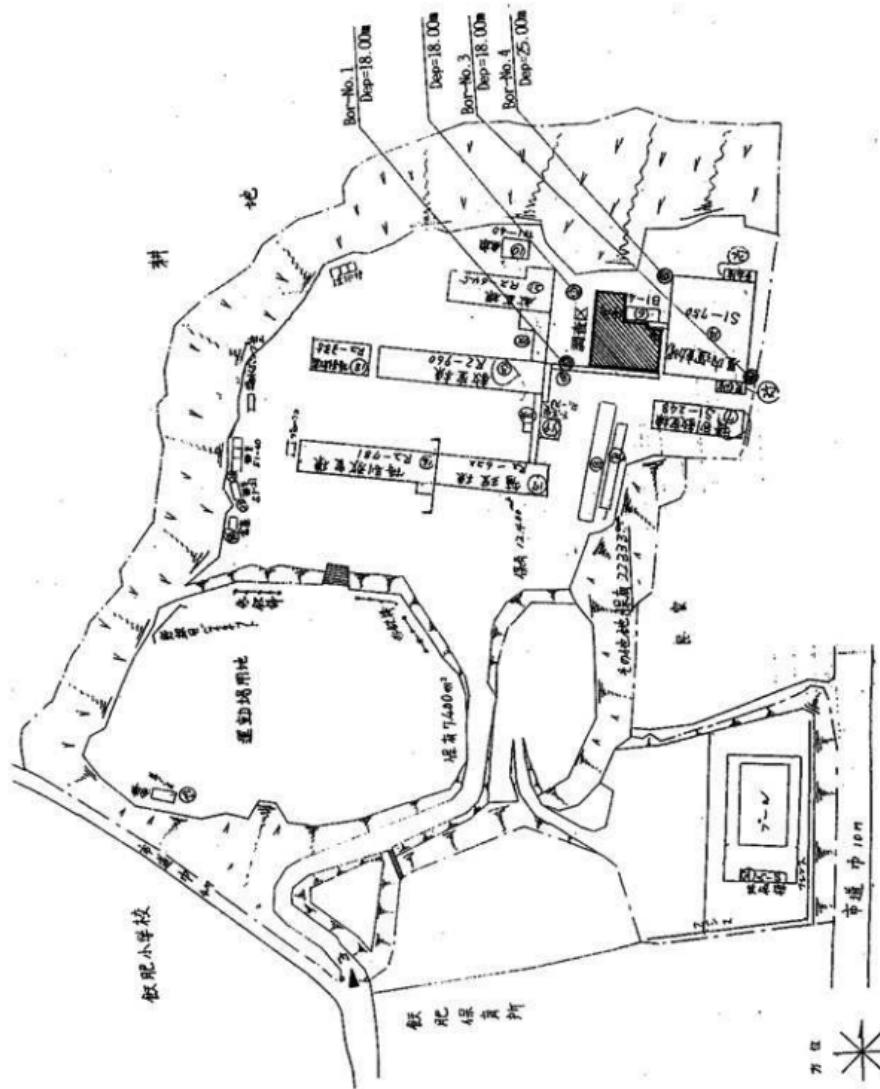
第1図 肥城周辺城館分布図

第2図 飯肥城繩張り図(江戸時代前期)

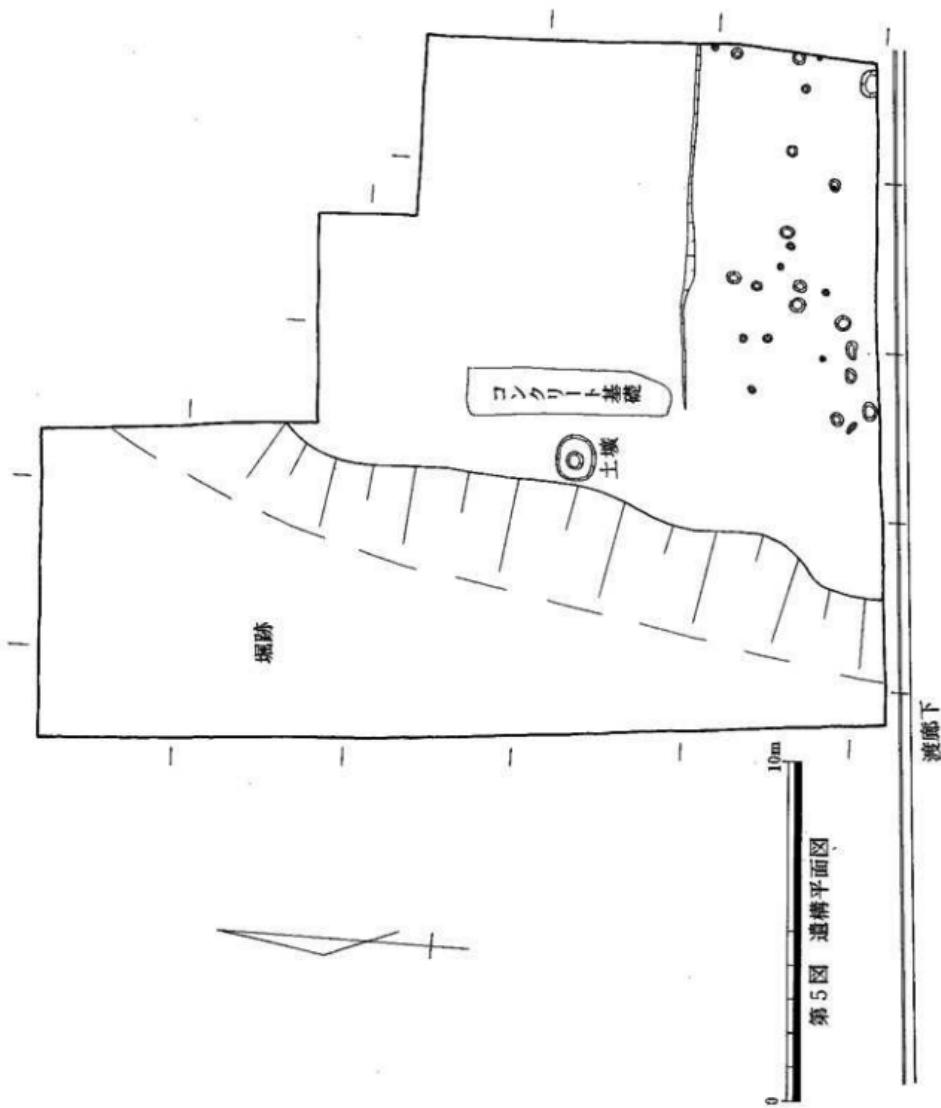




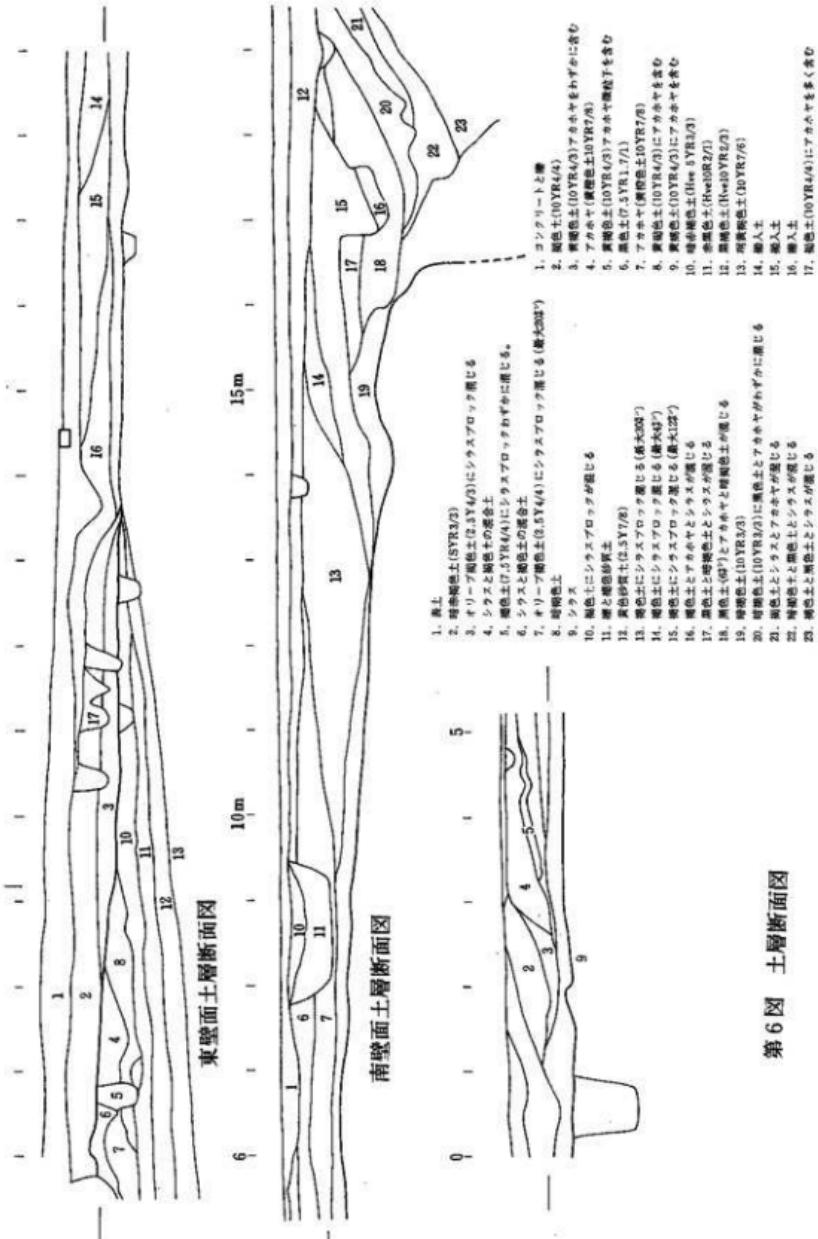
第3図 調査区位置図(1/2500)



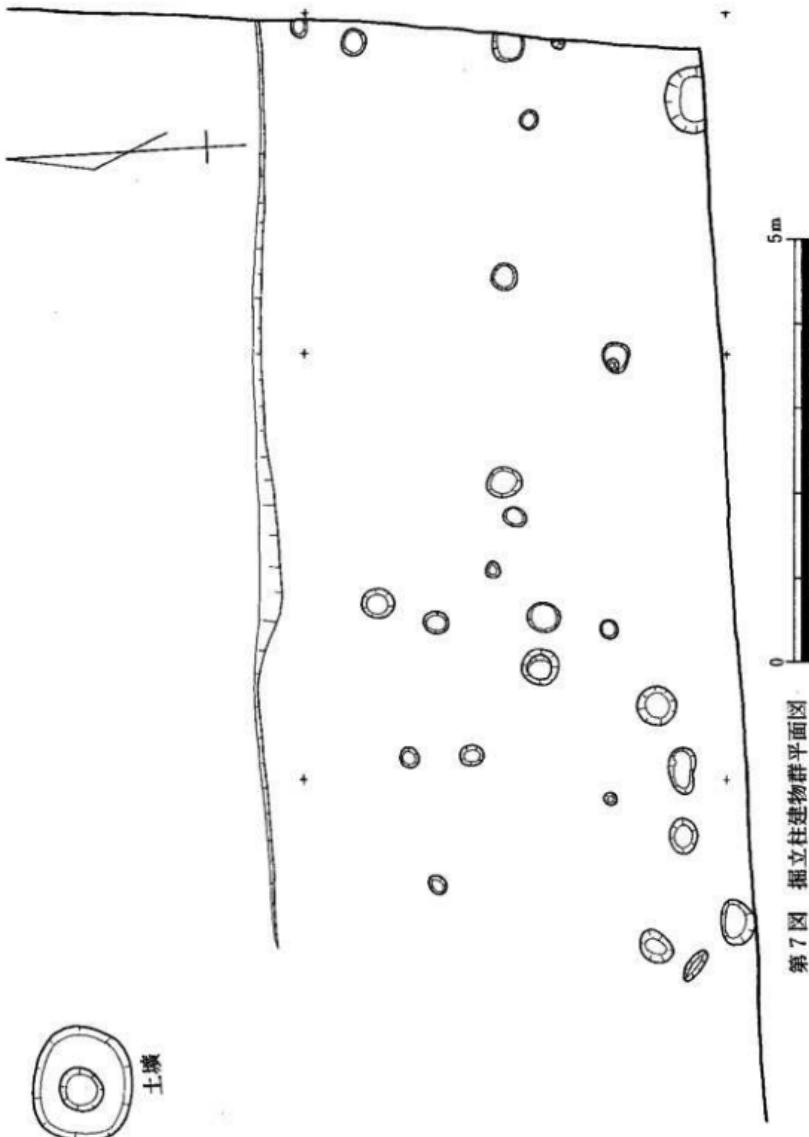
第4図 調査区位置図



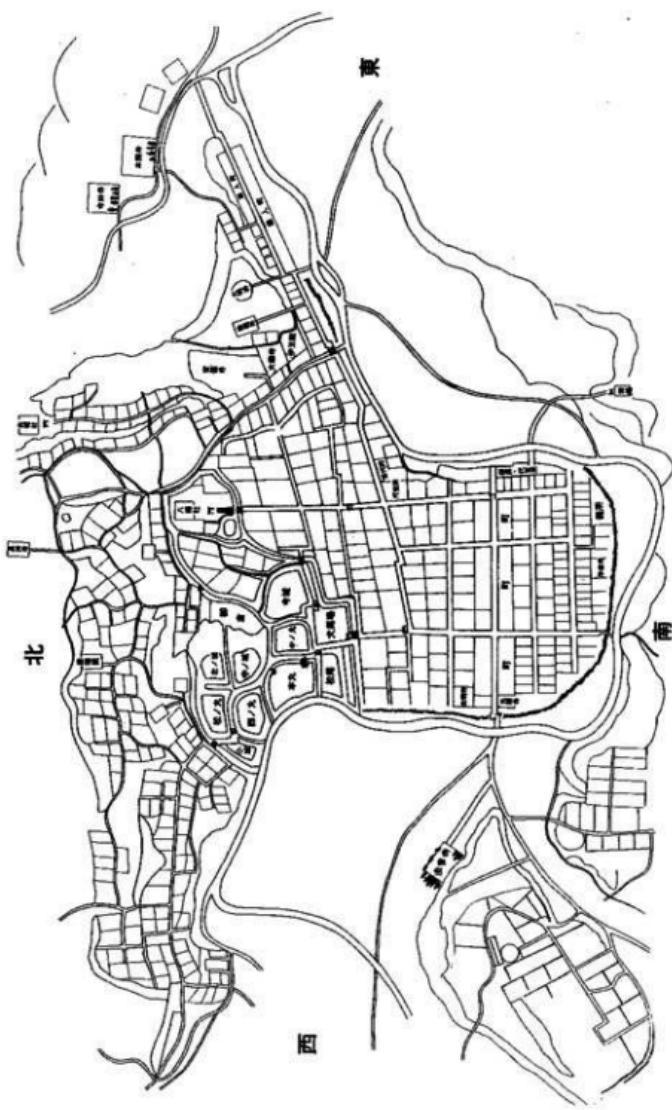
渡廊下



第7図 挖立柱建物群平面図



第8図 館肥城下古図(寛永・正保年間)



第9図 飯肥城下古図(慶応年間)



写 真 図 版



▲調査前(西から)



▲試掘状況(西から)



▲試掘トレンチ 1



▲試掘トレンチ 2



▲調査状況



▲調査状況



▲掘立柱建物群検出状況



▲基礎検出状況



▲堀掘削状況



▲掘立柱建物群掘込状況



▲掘立柱建物群完掘状況



▲堀完掘状況



▲堆埋土堆積状況(南壁)



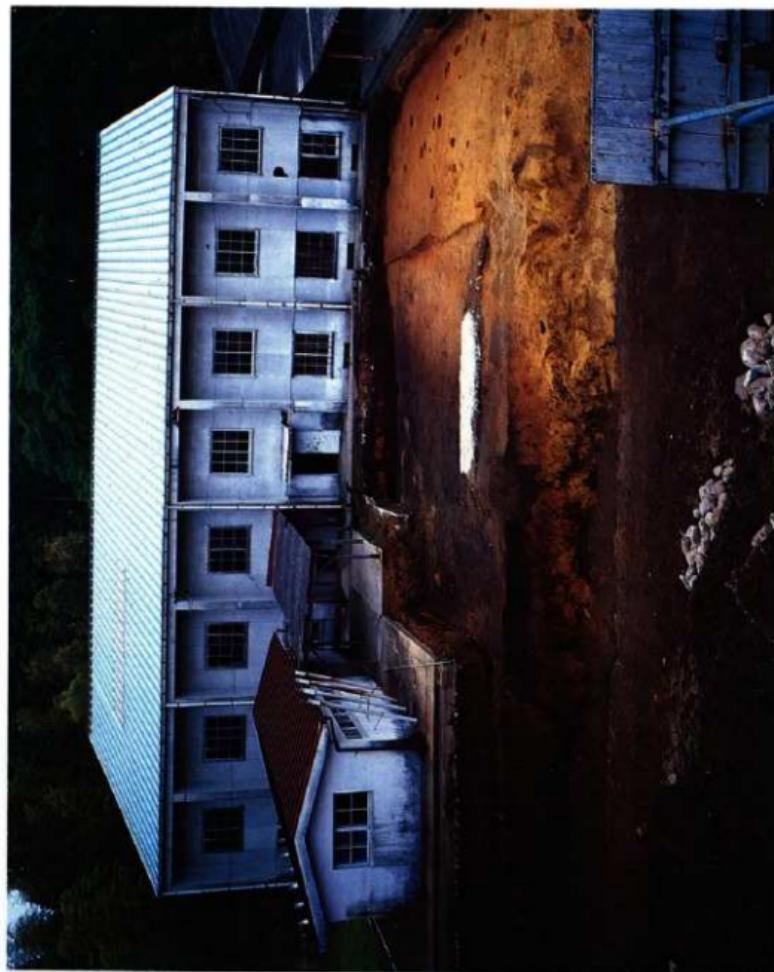
▲調査区南壁土層



▲ 墓埋土堆積狀況(北壁)



▲ 土壤 1 完掘狀況



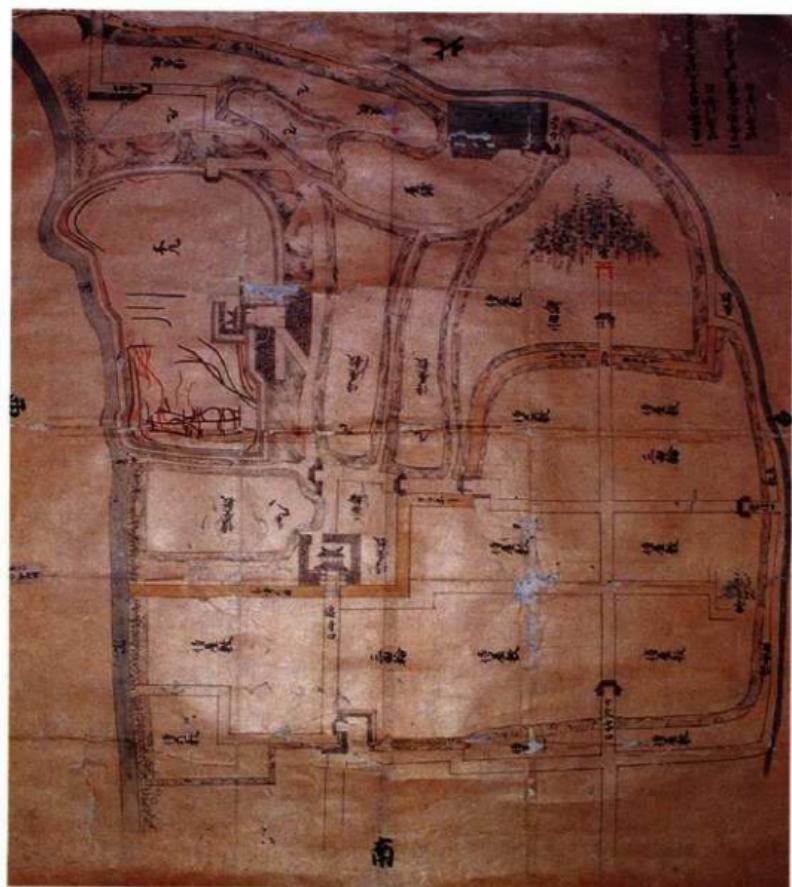
調查区完掘状况



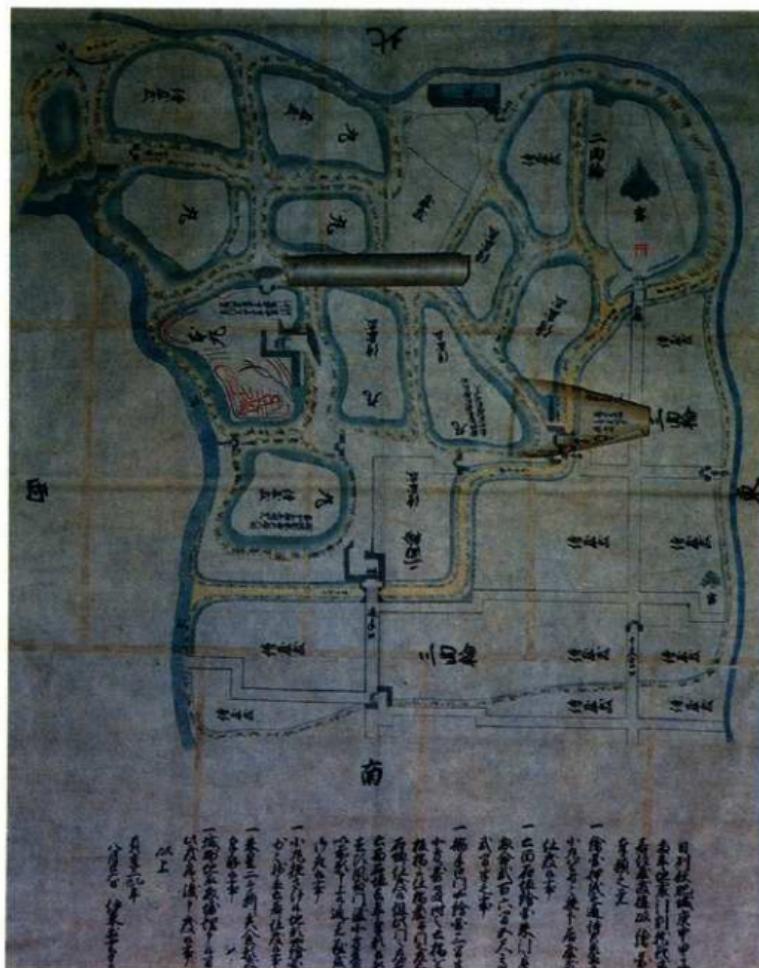
飯肥城下古図（寛永・正保年間）



日向國飫肥城破損之覚図（寛文 2年）



鰯肥城再度地震地割古図（延宝 8 年）



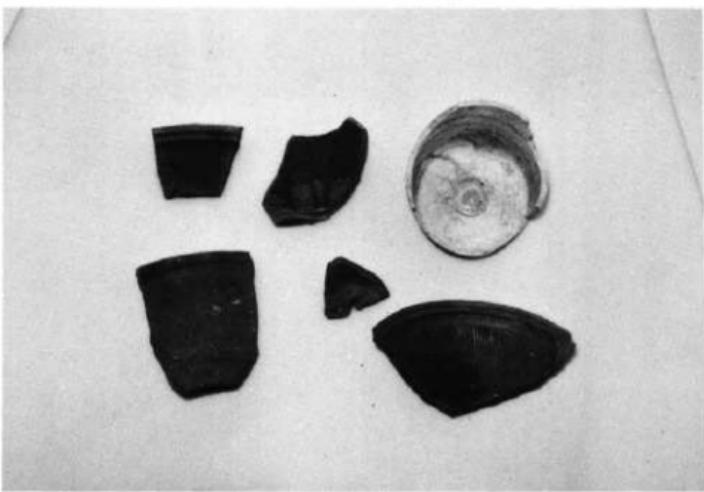
飫肥城改築頃古図（貞享 2 年）



飫肥城図（明治5年）



出土遺物



出土遺物

日南市埋蔵文化財調査報告書 第3集

飫肥城跡

—飫肥中学校体育館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1994年3月

編集・発行

日南市教育委員会

〒887 宮崎県日南市中央通1-1-1

☎0987-31-1145

